

2:1 私は、見張り所に立ち、とりでにしかと立って見張り、主が私に何を語り、私の訴えに何と答えるかを見よう。

2:2 主は私に答えて言われた。幻を書きしるせ。これを読む者が急使として走るために、板の上にはっきり書きしるせ。

2:3 この幻は、なお、定めのためである。それは終わりについて告げ、まやかしを言っていない。もしおそくなくても、それを待て。それは必ず来る。遅れることはない。

2:4 見よ。心のまっすぐでない者は心高ぶる。しかし、正しい人はその信仰によって生きる。

2:5 実にぶどう酒は欺くものだ。高ぶる者は定まりがない。彼はよみのようにのどを広げ、死のように、足ることを知らない。彼はすべての国々を自分のもとに集め、すべての国々の民を自分のもとにかき集める。

2:6 これらはみな、彼についてあざけりの声をあげ、彼を皮肉り、風刺してこう言わないだろうか。

「ああ。

自分のものでないものを増し加える者。

——いつまでだろうか。——

質物でおのれを肥やす者。」

2:7 あなたをかむ者が突然起き上がり、あなたを揺り動かす者が目ざめないだろうか。あなたは彼らに奪い取られる。

2:8 あなたが多くの国々を略奪したので、ほかのすべての国々の民が、あなたを略奪する。あなたが人の血を流し、国や町や、そのすべての住民に暴力をふるったためだ。

2:9 ああ。自分の家のために不正な利得をむさぼり、わざわいの手からのがれるために、

自分の巢を高い所に据える者。

2:10 あなたは自分の家のために恥すべきことを計り、多くの国々の民を滅ぼした。あなたのたましいは罪を犯した。

2:11 まことに、石は石垣から叫び、梁は家からこれに答える。

ハバククが神様に求めたことは2節以降です。それは敵からの救いであり、「はっきり書き」しるす価値のあるもので、「急使として走る」ほどにすばらしいもので、また「おそくなくても、それを待」って良いほどに確かなものです。神様からの助けと救いをいただくなら、それほどの信頼を持って待ち続けましょう。

神様は敵と神の民との違いを明らかにされます。敵は「心のまっすぐでない者」すなわち神と真実に向き合えない者であり、また「高ぶる」者すなわち神なしで生きて神に背く者です。それに対して神の民の「正し」さは、別次元のものです。すなわち敵よりもどれほど正しいかという、比較の問題ではなく、信仰の問題であるということです。

これはイエス様の十字架を信じる信仰を指し示すものです。私たちクリスチャンが神様によって敵から守られるのは、この根拠すなわち「信仰によって生きる」ということにあるのです。

5節以下は敵の不義について書かれています。8節まではむさぼり、11節までは不正な利得です。私たちは自分自身も同じ罪があることを謙遜に認めつつも、主の十字架によって赦されていることを信仰によって感謝しつつ、しかしまた敵への告発を警告として、きよい者となってゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

